

男女平等推進センター ネットワーク会議開催

センターの運営及び事業に関する基本的事項等について協議するため、5月25日(水)に新しい委員による男女平等推進センターネットワーク会議を開催しました。

会議は、各界各層の23名の委員で構成され任期は2年間です。会議では新代表、副代表を選任し、平成27年度の事業実績、平成28年度の事業計画案、また男女平等・共同参画をさらに推進するための普及、啓発活動について、それぞれの立場から意見を交わしました。



高岡市 DV 対策関係機関連絡会開催

6月22日(水)に男女平等推進センター会議室で、高岡市DV対策関係機関連絡会を開催しました。構成機関の警察署、県女性相談センター、県児童相談所、県厚生センター、民生委員児童委員協議会、人権擁護委員協議会、市医師会、DV被害者自立支援基金パサパ、男女平等推進センターから会員が集まり、最近のDV相談件数や対応状況などについて報告や意見交換を行いました。

男女平等推進センターの平成27年度の全相談件数の内、DVが占める割合は減少していますが、DV自体が減少しているのではなく相談先が分散化していると考えられること、相談内容もDV問題に加え、経済的な問題や子どもの問題、精神的な問題など複雑化しており、支援の難しさや長期間の支援の必要性を感じるなどの報告がありました。

相談を受けた際は適切な関係機関へつなげ、連携して被害者の安全確保や自立支援を進めていくことを確認しました。

高岡市男女平等推進センターの案内

高岡市男女平等推進センターは、男女平等・共同参画社会を実現するための拠点施設です。相談、講座等の開催、男女平等・共同参画を進めるための市民活動やネットワークづくりの支援、図書の出し入れや情報誌の発行等による情報提供などを行っています。

※休館日
毎月第4月曜日・12月29日～翌年の1月3日

〒933-0023
富山県高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)
TEL (0766) 20-1810・FAX (0766) 20-1815

<相談室>

専任相談員が、DVや生き方、夫婦の問題などいろいろな相談を受けています。【予約が必要です。】

●相談時間●
(月・火・水・金・土) 9:30~16:30
(木のみ) 14:00~20:00

★日曜・祝日・毎月第4月曜・年末年始は休みです。

相談室専用電話
(0766) 20-1811



高岡市男女平等推進

〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7
(ウイング・ウイング高岡6階)
tel. (0766) 20-1810 fax. (0766) 20-1815

E-mail. gec@city.takaoka.lg.jp
HP: http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html

センターだより

2016
8月1日 発行

第64号

ありて
mate
めいと

「ありて」は、自分の力で問題解決していくイギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公の名前です。「私の未来は私が創る」とアリーテはいます。



「職場づくり」はTEAMとHOME。
それぞれのワーク・ライフ・バランスを考える。

株式会社アキデザイン
代表取締役社長

いかだい ひでき
筏井 秀樹

商品カタログや観光パンフレット、イベント企画からグッズの製作まで、「デザインで社会貢献」をモットーに事業を行っています。常に新鮮な発想とクリエイティブワークに創意工夫が求められる業界です。

私が社長に就任した平成24年、退職した女性社員が二児の子育ても落ち着いたこともあり職場復帰しました。翌年には正社員として働くことから、女性を取り巻く職場環境の整備が必要だと考えていた折、高岡市男女平等推進センターの勧めもあり、高岡市ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定を受けました。そして社員のライフステージに合わせ、再挑戦を支援する「出産・育児などを機に退職した従業員を対象とした再雇用制度」を取り入れ、育児や介護による退職者の再雇用と育児休業の取得、さらに育児休業後に本人の希望する時間での短時間勤務制度も利用できます。平成26年には「仕事と子育て両立支援企業 県知事賞」を受賞したことを機に、年次有給休暇の利用促進や残業時間削減など、雇用環境

の整備のため、行動計画の策定や在宅勤務制度など様々な社内規定も策定しました。

また、昨年はその他の二人の社員が出産し、現在も短時間勤務制度を利用しています。当社は30名の社員の内、女性の割合が6割と高く、女性社員の力が売り上げにも大きく貢献していると感じています。

職場はTEAMとHOMEの両輪だと考えます。チームは、デザインを通して売り上げを伸ばすプロ集団であり、共通の目的、達成すべき目標に向かって連帯責任を果たせる補完的なスキルを備えた、少人数の集合体を理想とします。ホームは、社員一人一人の自己実現を果たす場だと思っています。一日の大半を共に過ごす職場は、心豊かに生きがいとやる気を感じる我が家にまさることが理想です。職場に自己実現を持ち込まないという考えもありますが、家庭でも職場でも夢を描き、自分自身の人生をデザインすることも大切なワーク・ライフ・バランスではないでしょうか。